

皆さま、こんにちは。  
府中教会、アンドレアです。

11月1日本日は、諸聖人の祭日です。今日の福音は、「山上の説教と呼ばれる箇所」の最初の部分です。イエスは、この「山上の説教」の初めに、8つの「幸せ」について語られます。聖書の中で言う「幸せ」は、「神からの祝福であり報い」とされています。不思議なことにこの教えの初めと終わりは、「天の国はその人たちのものである」という言葉でくくられています。神の国に入るといことは、「永遠の命を得るためには、どんな善いことをすればよいのでしょうか」と金持ちの青年がイエスに質問をする場面がありますが、ユダヤ人たちにとっても今の私たちにとっても、「大切な目標」と言ってもいいでしょう。

イエスは、いつも御父を中心に福音を語られます。イエスは、私たちが御父とともに食卓を囲む「天の国」に入るとい「幸せ」を一番に望んでおられます。カトリック教会は、伝統的に、「諸聖人の交わり」の教義によって、既に神のもとで永遠の幸福に預かっている聖人たちも、この地上の生活を送っている私たちも、そして天国と煉獄で最後の心の準備を受けている兄弟姉妹たちも皆、同じキリストの教会に属していて、互いに助け合うことができると教えています。とすることは、11月2日私たちが記念している「死者の日」は、いまだに最後の魂の準備にあつて、まだ永遠の喜びに完全に体験していない死者のために祈る日です。神様のもとにお召しになった方々が一日も早く心構えを終えて、御父のもとで永遠の幸福に預かれるよう祈る日です。

ですから、神様の救い計画が成し遂げられるよういつまでも熱心にお祈りしましょう。そして、聖人たちと一緒に亡くなられた兄弟姉妹たちのために、「死者の日」だけではなく、特に「死者の月」として定められているこの11月中、お祈りしましょう。



Christian Boltanski, 諸聖人, 2015, Sao Paulo